

卒業にあたって ～ 蘇南中はインターナショナルスクール！

2月22日のことでした。

私が予定を書いていると、同じクラスの外国籍Kさんが話しかけてきました。「明日何の日？」と聞かれた私は、「天皇誕生日だから休みだよ。」と答えました。

するとKさんは、「てんのう…誰？」と、私に質問しました。

私は驚いて、しばらく答えることができませんでした。というのも、テストであれば、「日本の象徴」と答えるべきですが、簡単に日本語で説明するにはどうすればいいかわからなかったからです。

迷った挙句、私は「日本で一番偉い人みたいな…」という曖昧な答え方をしました。

すると、Kさんは「王様？」と聞いてきました。私はまた困ってしまいました。日本の天皇は、政治的権限がなく、Kさんがイメージしているような王様とは違った立場だと思ったからです。結局「王様みたいな人だね。日本といえばこの人！みたいな…うーん。」という、はっきりとした答えを返せないまま終わってしまいました。

「天皇」のような日本特有の仕組みを簡単な日本語で説明するのは難しいと思いました。わからない人にどうしたら伝わりやすいかを試行錯誤していく必要があると思います。そう考えていくと、その試行錯誤は、私たち日本人にとってもより理解が深まるという点で、よい影響なのではないかと思いました。

私と外国籍の人とのエピソードは、まだまだあります。

私には、1年生の夏に日本に来て3年間同じクラスの友人がいます。その子は、初めは日本語もわからなかったのに、今では転校してきたばかりの国籍の違う子に積極的に話しかけています。その子が日本語を一生懸命に学ぶ様子を3年間ずっと見てきた私は、その様子にとっても感動しました。

また、ある日カタコトの日本語を話しながら、急いで学校をあとにするお母さん方をみました。すると、青山先生が「あの人たちはフィリピン

人とブラジル人なんだよ。」と教えてくれました。今まで外国籍の人は、同じ国籍同士で親しくなるものだと思っていたので、私は驚きました。このように国籍が違って仲良くなることができるなんて素敵なことだし、これがこれからの多文化共生としてあるべき姿ではないのかと、その時感じたのです。

日本は今、外国人が増加しているとは言いますが、実際それを小中学生のうちから体感することはあまりありません。しかし、この蘇南中では、生活の中で周りに一生懸命日本語を学ぶ子たちがたくさんいるという状況を、当たり前を経験します。例えば、「天皇」の話のように機会を設けなくてもナチュラルに異文化に触れることもできます。それが幼い時から続いているから、余計な先入観もなく、ありのままの態度で共に生活できていると思います。蘇南中は、意図せずインターナショナルスクールになっている分、もしかしたらすごく貴重な体験ができる場所になっているのではないかと気づきました。

このようなことができるのも、可児ではプレビアやばら教室など、外国から来た人を対象とする支援の手厚さがあるからだだと思います。昨年NHKのテレビ番組で特集されたように、可児市の制度は全国から見ても極めて先を行くものだと思います。この環境で学ぶことは、私たち日本人にとっても勉強になることばかりです。本当にすごいことだと思います。

「外国人が多いと治安が悪い」というようなイメージを抱かれがちですが、少なくとも私たちは 9 年間外国籍の人が多くの中で生活してきた、何かデメリットを感じるわけではありません。可児で、蘇南中でしか感じるようなことがたくさんあるからです。

きっとこの 9 年間は、これからの私の人生においても、私の中の価値観として残っていくと思います。蘇南中に関わる全ての人には、ぜひ「うちの学校ってすごい」と誇りをもってほしいです。きっとより 1 日 1 日を大切に生活できると思います。（令和 2 年度 3 年女子）